

府中市議会 第3回議会改革特別委員会会議録（要約）

平成30年12月20日午前10時0分、議会改革特別委員会を第二委員会室において開会した。

1 出席委員

委員長	三 藤 毅	副委員長	本 谷 宏 行
委員	加 納 孝 彦	委員	安 友 正 章
委員	土 井 基 司	委員	加 島 広 宣
委員	岡 田 隆 行	副議長	大 本 千 香 子

1 説明のため出席した者

なし

1 事務局及び書記

事務局 長 赤 利 充 彦

1 本日の会議に付した事件

- (1) 議会報告会で出された意見・質問に対する回答について
- (2) 今後のスケジュール（再確認）について

～～～～～～～～～～～～～～～～～～

午前10時0分 開会

○委員長（三藤毅君） ただいまから議会改革特別委員会を開会いたします。

それでは議事に入ります。本日の議題は、お手元に配付しておりますレジュメに沿って進めさせていただきます。

まず、議会報告会で出された意見・質問に対する回答についての件を議題といたします。先般の議会報告会で出た意見、質問の中から、議会改革特別委員会に関連する事項をまとめたものを配信いたします。

改めて回答する必要があるものの確認、似た質問と回答の集約、文言の整理等を行い、最終的に広報広聴特別委員会に返していくようになります。それでは、一つ一つ確認していきたいと存じます。御意見がありましたら順次御発言願います。

〔議会改革特別委員会分の22項目について、回答内容、表現等について、検討し、修正等を行った。〕

○委員長（三藤毅君） ただいま協議・確認していただいた内容については、広報広聴特別委員会へ報告いたします。

○委員長（三藤毅君） それでは、議会改革について出た意見については、本特別委員会として、どのように今後に反映させていくべきか、皆さんの御意見をいただきたいと存じます。

○副議長（大本千香子君） 次のスケジュールはシンポジウムですが、シンポジウムの内

容や会場のアンケートに反映していけばよいと思うが、シンポジウムのスケジュール、内容を具体的に検討しなくてはならないと思います。

○委員長（三藤毅君） そのような方向性でよろしいでしょうか。

〔「よし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（三藤毅君） それでは、そのような方向性で。

続いて、今後の大まかなスケジュールについて、確認をさせていただきたいと思います。

赤利事務局長。

○事務局長（赤利充彦君） データを配信いたします。今後の大まかな日程ですが、最終、再来年の３月議会へ条例を提案するということを前提として考えると、その前段で、もし報酬や政務活動費の変更をするということになると、報酬審議会にかけなければいけないので、できる限り早めの方がいいかと思います。平成31年12月頃には、委員会の報告書はまとまっている形が望ましいと思います。その前段では、来年も議会報告会がありますので、そこで議論しないというわけにはいかないと思いますので、それについては、ここで決定いただければと思いますが、議会報告会の後に仕上げをするということになると、議会報告会で答申の素案を住民に示して、そこで意見をいただく、それに基づいて最終決定するのかなと考えています。じゃあ、議会報告会の前には何をするのかなというのと、諮問事項に対する答申の素案を決定したり、各会派で御意見を集約いただくのかということになってきます。その前段でシンポジウムで、今後の諮問事項に反映できるような内容で開催していく、講師についてもそのような形で、中身がリンクしている必要があるということで、そのように書いてあるわけです。

それで、今のところシンポジウムは来年度に入って早々に行うようになるのかなと思っていますが、じゃあ、それまで何もしないというわけにもいかないの、それまでに、どこまで話を進めていくのか、他市町の状況をお聞きしたり、国の議会改革のあり方の議論の勉強をしておく必要があるのかなと思います。また、そればかりではなく、シンポジウムの前に皆様方の意見を出していただくべきなのか、その後に先送りするのかということも必要なのかなと思います。シンポジウムに考えも持たずに出ても、意見は出ないのではないか、住民も来てくれるのかな、皆さんの意見も出た中で、次につなげていく形で行くべきであるとの御意見もいただいています。また、シンポジウム、講演会等、実際にどのような形で実施していくのか、詳細等も決定していただければと思っています。

○委員長（三藤毅君） ただいま、事務局が説明いたしました件について、御意見、御質問等がありましたら、順次御発言をお願いします。

本谷副委員長。

○副委員長（本谷宏行君） シンポジウムになるのか、講演会になるのかの前に各議員の考えの集約まで行くのか、述べる場を設けるのかということになると、私は、シンポジウム、講演会の後に各議員の声をまとめるほうが、各議員の考えがまとまるのではないかと思います。それ以前にやったとしても、難しいのではと思う。では、シンポジウムまでには国の地方議会のあり方研究会の勉強会、意見交換会等を行い、以前の特別委員会の2人削減の結論が出されていますが、どういう意見があったということもわからないところもあるので、前回の特別委員会の意見交換で2名削減になったということも踏まえたうえで、議論をしていく必要があるのかなと思います。シンポジウム前には、そういうことをやっていくべきなのかなと思います。

○委員長（三藤毅君） ほかにありませんか。

岡田委員。

○委員（岡田隆行君） 何事も動いていますので、みんなが勉強して、自分の意見を持って望むことが大切だと思う。あと、改革しているところへ行ってみる。その中で講演会へ望む必要があると思います。

○委員長（三藤毅君） ほかにありませんか。

大本副議長

○副議長（大本千香子君） シンポジウムを4月から5月に行うとなれば柱を決めなくてはいけないし、それまでに議員の中での勉強会、近くの岡山県総社市への視察を組ませていただいたり、そういう勉強もやっていく必要があると思う。1月～2月は議員研修や勉強をやっていく必要があると思います。

また、会場アンケートとあるが、一体何人来るのか、議会報告会で150人程度、それだけのアンケートで納得してもらえるのか、そうすると、シンポジウム前に市民向けの、前回は3,000人だったと思うが、そういうランダムな、市民全体に向けたアンケートを発送する、あるいは、後の発送を考えると、たくさんの市民の方の御意見を集約するものでないと、会場アンケートだけでは、市民の方に納得していただけないものになってしまうという感じはしています。

○委員長（三藤毅君） 今の御意見の中にあつた、一つは、今までの府中市議会としての議会改革の流れを再確認する、それから、皆さんそれぞれに思いはあると思います、色々と調べたりされていると思います。そういう資料も全部出していただいて、この中で協議をしたりして、必要があれば、視察に行ったりして、準備をしたいと思います。

それから、シンポジウムか講演会かの開催時期の目安、アンケートが先か、講演会が先か、そういうところの大まかな流れ、また、特に講師の確保が必要なので、いつ頃を

めどに開催するかを決めておいた方がいいと思いますがいかがでしょうか。

土井委員

○委員（土井基司君） 先ほど事務局長からあったように、議会報告会が秋にありますので、その場がスルーにはならないので、その時に素案のようなものを示さないといけないと思うので、そうすると、シンポジウムが終わってからそれまでにまとめる作業を本谷副委員長が言われたように、シンポジウムの結果を受けながら、皆の意見をまとめていくとなれば、相当な日数を覚悟しておかなければと思う。かつ、準備とかを考えたら、5月ぐらいがよいのではと思う。

○委員長（三藤毅君） 5月という意見が出ましたが、皆さんよろしいですか。そう、統一地方選挙がありますね。5月最初には10連休もありますよね。5月中旬、5月20日までには。

○委員（加納孝彦君） 6月議会が終わってから見直して、9月議会が終わったあたりでまとめて、議会報告会へ望むというふうにしないと。5月開催となると、厳しい日程なので、月2回ぐらいのペースでやっていかないとと思います。

○委員長（三藤毅君） それでは、日程的には5月13日が月曜日です。

○副委員長（本谷宏行君） 平日がよいのか、日曜日がよいのか。

○委員長（三藤毅君） 土、日であれば5月18日か19日。

○委員（安友正章君） 土、日の方がよいのではないですか。若い世代とか、女性が聞いてもらえるようなことをやっていかないと、夜だけとなると人の数も集まらない、年寄りも出にくい。実際には集客ができない。

○委員長（三藤毅君） 5月のゴールデンウィーク明けの土、日となると5月11日、12日又は5月18日、19日となりますが、この辺でよろしいでしょうか。

〔「賛成」と呼ぶ者あり〕

○副委員長（本谷宏行君） そうなると、講師をどなたに依頼するかということである程度候補を挙げていないと日程的に難しくなるかなと思います。

○委員長（三藤毅君） 先日 J I A M の議会改革の講師が出ていたが、ある意味、ずっと以前から言われていることなので、議論としては。出尽くしていると思う。

○委員（加納孝彦君） 意外と流れとしては、逆行してきていますよね。改革して減らす流れから、今度は増やす流れに転じようとしている。

○副委員長（本谷宏行君） 定数はどうなのか、定数はふえていないよね。報酬を上げる方向に進んでいると思う。

○委員長（三藤毅君） 動向は、市民の声を拾う仕組みづくり、関心をもってもらう仕組みづくり、それが議会報告会だったんだろうけど。

- 委員（土井基司君） 議会改革の先進事例の話をしてもらうというのものもある。シンポジウム形式となると、前に出てしゃべる人もいるので、先進地の方との意見交換をしないと、成り立たないような気がします。
- 委員長（三藤毅君） そもそも議会改革とは何かという話になってくるよね。いつも定数と報酬が先走って。市民の皆さんもそういうところにしか目がいかない。議会中継をしてきたとか、議会報告会をしてきたとか、議会だよりを出してきたとか、そういうことは、当たり前だろう、何が不思議なのかの話で、でもそれは全国の議会としては、なかなかやってこなかったことで、それに結構早くから取り組んだことで、先輩議員の皆さんからすると、やってきたという自負心はあると思うが、市民からすれば遅いのではないかという話になるかもしれない。ここから先、府中市議会としての議会改革は何がテーマとなるのか、それが、きょうの議会報告会などの意見からでも読み取れるものでもあるのか。
- 副委員長（本谷宏行君） 議会改革全般から言うと、議会基本条例をせっかくだつくられた、府中市議会はこういうふうなことでやっていきますと示されているので、特別委員長は諮問されていることに絞ってやることで終わったとしても、その後には、議運の方でも、ちゃんとやっていって、条例はつくったが、本当にどこまでできているのかを含めてやっていく必要がある。そういう活動をやっていくことが、議会改革につながっていくと思います。広瀬さんと江藤さんぐらいしか知らないが、さっき、土井委員が言われたように、定数や報酬だけなら、シンポジウムはいらないと思います。逆に言うと、そうじゃない、市民の皆さんに役に立つような議会にするためには、こういう議会は必要だというような形のシンポジウムであれば有意義であると思います。
- 委員（土井基司君） 関心を持ってもらえるかどうか、一番大きな問題だと思います。
- 副議長（大本千香子君） 政治に対しては大体皆さん無関心ですが、民主主義といったら、出す一人一人が主権者なので、その人が政治をしっかり監視したり、政治に物申したり、議員をしっかり働かせたりするのは市民なのです。その市民も変わらないといけないし、議会も変わらないといけない。一緒になって、自分の声が行政に届くとか、自分の声が世の中を変えていける力になるということを皆さんが納得していただける、実感していただけるような議会を目指したいということなのではないかと思う。だから、議会の定数、報酬だけの話ではないので、この改革はエンドレスだと思うので、よりよいものをつくっていかねばいけない。この講師はリストアップしていただいて。
- 委員（加納孝彦君） 1月に話をしましょう。講演にするのか、先進地視察をするのか、1月の早々に話をして、シンポジウムなのか、講演なのかを総合的に話をした方がいいと思います。

○委員長（三藤毅君） それでは、今の事を踏まえ、次回の委員会日程と協議内容は今言ったようなことで行いたいと思います。

（次回の特別委員会の開催日程を1月8日（火）午前10時とすることとした。）

○委員長（三藤毅君） ほかにございますか。

○委員（土井基司君） 月2回ぐらいのペースで行うのですね。

○委員長（三藤毅君） そうですね、定期的に行うのが良いですね。

○委員長（三藤毅君） 事務局のほうから何かございますでしょうか。

○事務局長（赤利充彦君） ございません。

○委員長（三藤毅君） なければ、以上で議会改革特別委員会を散会いたします。

午後0時4分 散会

府中市議会委員会条例第29条第1項の規定により、ここに押印する。

平成31年1月7日

府中市議会改革特別委員会

委員長 三 藤 毅